



すずき ひろむ
鈴木 弘
(至誠)

保健福祉
企 画
教 育

睡眠時無呼吸症候群（SAS）^{※11}の検査推進について

問 市民に対して症状・検査方法・医療機関の情報を発信することについて伺う。

部長 心身の健康を保つために睡眠は欠かせない生活習慣である。睡眠の充足感が感じられない場合は、睡眠時無呼吸症候群などの睡眠障害の可能性がある。市では企業や寄り合い処において、睡眠の質の向上や生活習慣病の予防を目的として「睡眠についての健康教育」を今年度から始めている。そこで睡眠時無呼吸症候群についても周知に努める。また、ホームページや広報紙などでも啓発を進めていきたい。



「富士宮市DX^{※9}推進計画」の取組状況について

問 変化した点を伺う。

部長 オンライン申請や申込み手続きによる申請件数の大幅な増加、庁内1階のキャッシュレス決済の実装による納付手段の拡大と待ち時間の短縮など窓口業務において大きな変化があった。

また、庁舎内でのパソコン利用の汎用性の向上、ペーパーレス^{※12}化推進、会議録の文字起こしにAI^{※1}を活用するなど業務の面でも大きな変化があった。

図書館とその事業について

問 セカンドブック^{※13}プレゼントを行えないか。

部長 セカンドブックプレゼントは、こどもがより多くの本と出合うきっかけになり、また、図書館を身近に感じられることが期待できる。他市の状況を調査し、研究していきたい。



ひらした なおき
平下 尚己
(明和)

総 務

職員のデスクワークによる腰・肩などの健康被害防止及び執務環境改善について

問 職員一人ひとりに合わせて調整可能な昇降デスク・可動式デスク、調整式椅子、モニターアーム・2画面化の導入の考えはあるか。

部長 ペーパーレス^{※12}化進行中の段階のため、更新が必要であるものを除いて、備品のみ更新を先行して行うことは検討していない。

問 長時間の座位姿勢となる職員の健康保持・負担軽減について、1時間に1回程度の立ち上がり・ストレッチ・席変更など、動きを促す職場習慣を庁内に定



着させる考えはあるか。

部長 1時間に1回程度の立ち上がり・ストレッチなどの意識づけや腰・肩などの不調防止・軽減のための方法の紹介など、できることを実施していきたい。また、執務室内の整理整頓や進行中のペーパーレス化とも併せて、職員が心身ともに健康で働ける職場環境の維持・改善にも取り組んでいきたい。

要望 職員が健康で働ける環境は、市民から信頼される市役所の基盤であり、持続的なサービス提供を可能にします。ぜひ、机、椅子等の備品改善にとどまらず、執務環境、働き方、職場習慣を一体的に改善して欲しい。

